世界で〝種まき〟

北米軸に市場拡大

昨年、世界生産が最高更新

アイダエンジニアリングとアマダが好調な北米、東南アジアの各事業を充実させながら、伸び代のある他地域でも将来を見据えた〝種まき〟を本格化させている。アイダエンジニアリングは2015年に米国工場の大型工作機械の刷新で生産能力を高めるほか、低迷している欧州市場の回復を見越し、イタリア工場にも大型工作機械を追加設備する。アマダは15年度、タイに実証加工が可能な初の展示施設を設け、16年度には米国に新工場を稼働させる。中長期で成長が期待できるインドにも展示施設を14年新設。余白地帯だった東欧ではポーランドに初の販売会社を開業させたところだ。

日本鍛圧機械工業会（日鍛工）のまとめでは、13年の鍛圧機械の世界生産額は前年比24・9％増の2兆7678億円となり、過去最高を更新した。国内生産額は同6・9％増の2705億円。10年から4年続けてのプラス成長を遂げた。世界生産額は円高の是正によって、海外メーカーの額が円換算で膨れ上がってはいるが、世界市場は拡大方向にある。

鍛圧機械大手は北米事業の快走が続く。メキシコを含めた自動車産業を中心とする裾野の広い旺盛な設備投資、米国の製造業の力強い回復によって、現地販売が過去最高水準で推移している。一部で減速感が伝えられる東南アジアだが、主要な需要地に育ったことは間違いなく、これら地域と13年半ばに好転した日本市場が、各社の業績をけん引している。

アイダエンジニアリング　テスラから初受注

アイダエンジニアリングは14年3月期を過去最高の業績で終えようとしている。追い風が吹く受注環境を味方に付け、同期までの経営計画で重点化している新規顧客の開拓の成果が出てきた。完成車では印タタ・モーターズ傘下の高級車ブランド、英ジャガー・ランドローバーの開拓に成功した。英国、中国の両工場に自動車ボディーを成形する大型サーボタンデムラインなどを納める。およそ2年間で約120億円の受注を獲得したことになる。

13年末に実を結んだのが、電気自動車（EV）世界最大手の米テスラ・モーターズからの新規案件だ。機械式プレスで構成するタンデムプレスラインの受注に成功した。1月半ばにテスラからの初受注が報じられると同社株価が急騰し、年初来最高値を連日更新。世界的な起業家であるイーロン・マスク氏が率いる自動車業界の新星への食い込みに、株式市場から高く評価された。

テスラは14年に主力セダン「モデルS」の販売倍増や、初のスポーツ多目的車（SUV）「モデルX」の投入を計画している。今後大きく飛躍させたい販売を支えるのが、今あるプレスラインに追加される形で設置されるとみられるアイダエンジニアリングの同ラインだ。機械式プレス5台と搬送装置などで構成され、テスラ特有のアルミ車体を形作る。アイダエンジニアリングのイタリア工場から米カリフォルニア州の工場に供給される計画だ。

テスラは話題性の高いEVベンチャーということにとどまらず、自動車産業の新しい方向性を生み出す核となるメーカーと目される。米グーグルといったIT関連会社が、自動運転をはじめとして自動車業界への参入を加速させるなか、テスラはIT技術とを融合させた新しい車の価値を提供し得るメーカーだ。アイダエンジニアリングにとって今回の受注は、こうした自動車業界の先端動向や情報に、じかに触れ、吸収できる絶好の機会となる。

アイダエンジニアリングの小型サーボプレス

新興市場に先行投資

アイダエンジニアリングは目の前にある需要を取り込みつつ、世界生産体制の拡充にも動いている。プレス機の上部にあるクラウンといった主要構成部品を加工する、大型横中ぐり盤を世界全体で計4台追加設備することを決めた。4台のうち、自動車向けの超大型・大型プレスの主戦場である米国に1台、汎用機の販売が急増している日本に3台を割り振る。日本は生産性や加工能力の引き上げを狙い、米国では内製分を増やすことで、材料や部品の輸送費を削減するといった効果を見込んでいる。

一方、イタリアへ日本の工場で稼働していた大型横中ぐり盤2台を移設し、現地工場の生産能力を高める。15年度に10％の生産コスト削減を見込む。

欧州は市況が回復基調にあるとは言え、低迷を脱しきれてはいない。このタイミングでのイタリア工場の増強は、欧州市場の回復、トルコや東欧といった新興市場の成長を視野に入れた先行投資だ。しっかりと次の成長分野への手当をしている。

鍛圧機械

アイダエンジニアリングの新型サーボプレス

アマダ　米に製販拠点続々

アマダは北米の売上高を、18年度に850億円に引き上げる。13年度見通しは450億円。ほぼ倍増となる意欲的な計画とした。アマダも米国を中心とする北米の事業環境は好調そのもの。それを考慮すれば、850億円という数字は現実的だ。まずは計画達成の下地となる生産・販売網の整備に取り組む。

16年度に米イリノイ州シカゴ近郊に新工場を建設する。アマダは13年2月に米カリフォルニア州にレーザー加工機やタレットパンチプレス、周辺装置の新工場を稼働させたばかり。イリノイの新工場でも需要が高まる自動化のための周辺装置を組み立て、米国東部や南部への供給基地とする。これらエリアに対しては現在のカリフォルニア州の工場から運ぶより、物流コストや納期を抑えられる利点がある。

周辺装置はコスト削減や生産性向上などの要請から、需要が増加の一途をたどる。特に二酸化炭素（CO_2）レーザーに比べ、早く加工ができるファイバーレーザー加工機との親和性が高い。材料をより効率的にさばくのに効果が発揮できる。

米国では生産拠点だけでなく、販売拠点を複数新設する。米国北東部のオハイオ州、南東部のジョージア州などに実証加工ができる展示施設を複数カ所設ける。他社との競争が激しいエリアに自社直轄の拠点を置いてくさびを打ち込み、シカゴ近郊の新工場からの供給というユーザーの利便性を付加し、販売攻勢に出る。

もちろん製品構成の充実化も図る。今年6月には新世代のファイバーレーザー加工機「エンシス―3015AJ」の米国投入を予定する。発振器出力2キロワットで板厚25ミリメートルの鋼板を切断する。同サイズほどの厚みの材料加工は、これまで同4キロワット加工機の領域だった。米国中西部に多い自動車や建設機械、鉄道車両といった厚板を加工するユーザーなどに適する。従来、ファイバーレーザー加工機は板厚3ミリメートルまでの薄板に向き、厚板の加工は発振器出力を高めてエネルギーを多く使わなければ対応できなかった。

北米と並び業績のけん引役となった東南アジア。アマダは東南アジアシフトを鮮明にしていく。中国の現地法人からタイに人員を移管しながら現地事業を強める。15年7月をめどに、同社がテクニカルセンターと呼ぶ大掛かりな展示施設を開業する。投資額は約20億円となる見通し。すでにバンコク近郊のスワンナプーム工業団地に用地を購入済み。敷地面積約2万平方メートルの広大な土地に、延べ床面積1万1000平方メートルの建屋を建設する。

タイは東南アジアの統括拠点との位置付け。タイ、ベトナム、ミャンマー、カンボジア、ラオスのメコン地域の市場拡大に対応する。足元の東南アジア事業の売上高は90億円、うちタイは50億円の規模。17年には2倍に引き上げる計画を策定した。

アマダが米国ユーザー工場に供給したファイバーレーザー加工機

アマダが13年に開業させた米カリフォルニア州の新工場

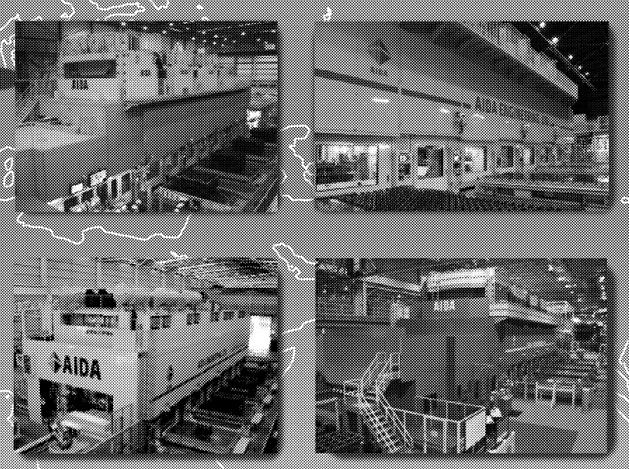
東欧・インドに布石

東南アジアに続く新興市場への布石も打っている。ひとつは東欧戦略だ。欧州は板金機械の最大市場だが、あくまでもドイツをはじめ西欧を中心に市場が形成されている。東欧は〝これから〟の地域と言える。2月、ポーランドの古都クラクフに設立した販売会社の営業をスタート。新興国対応として開発した新型の汎用レーザー加工機を大々的に売り出す。すでに現地事業は、受注、引き合いともに活発な状況にあるという。

年内にはインドにも新しい拠点の開業を予定している。20億円強を投じて建設する、展示施設を10月に開業。現在のインド市況は回復への期待感は高まるが、低迷が長引いている。今は先行投資のイメージだ。経済が上げ潮に変わった時点ですぐさま販売部隊がフル操業できるように、まずは施設だけでなく教育も含めたソフトとハードの両面で準備をしていく。

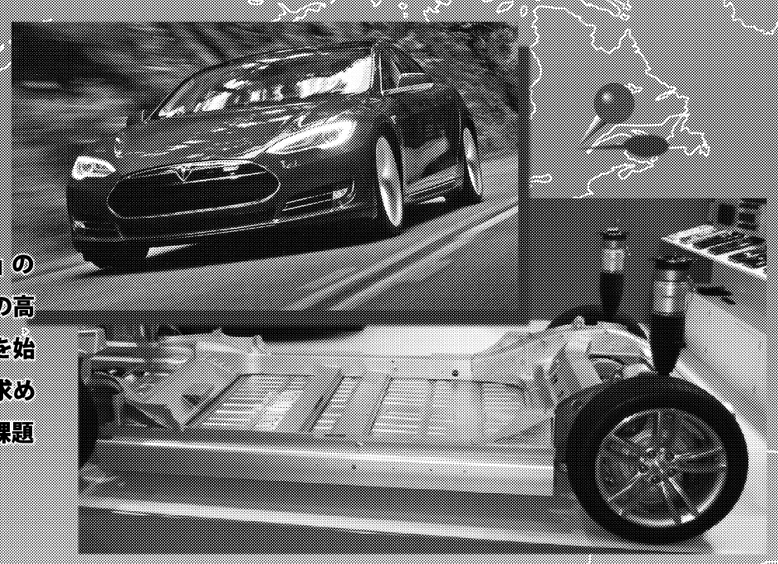
メイド・オブ・ジャパン

AIDA
世界が認めたアイダのテクノロジー
テスラ・モーターズのEV開発にアイダのタンデムライン導入が決定。



■アイダの大型サーボタンデムラインは世界の自動車産業（イギリス／タイ／中国／日本／アメリカ）で導入され活躍しています。

いま世界の自動車業界では、「省エネ（燃費向上）と安全性」の観点から「軽くて丈夫な」クルマ作りのため「軽くて強度の高い金属」が主流となってきています。次世代EVのボディーを始めとして多くの部品がアルミで造られるなどプレス成形に求められる技術も「多彩化・高度化」しています。アイダはこの課題克服に向け最先端のモノ造り技術で大きく貢献しています。


■2013年東京モーターショーで披露されたテスラのアルミ製フレームの新型EV

アイダエンジニアリング株式会社　本社 〒252-5181 神奈川県相模原市緑区大山町2-10 Tel.042-772-5231(代表) Fax.042-772-5261　ホームページアドレス　http://www.aida.co.jp/